

白神山地巡視日誌

【巡視箇所】 水沢山ブナの森公園（八峰町）～粕毛川源流部（藤里町）

【巡視日】 令和元年 6月27日（木）

【巡視者】 山内・有本

『白神山地世界遺産地域における原生的ブナ林の長期変動調査』に同行しながら、水沢から粕毛川源流部の三蓋沢入口までパトロールを実施してきました。

核心地域に入り、原生的なブナ林内の獣道のようなところを歩きながら、毎年継続して調査している固定調査区に着きました。気温計のデータ回収やセンサーカメラの設置など、調査委託業者の方々の作業状況を確認しながら、ふと視線を上に向けると、ブナの木々が空一面を覆い隠すように枝葉を広げています。梅雨に濡れる深緑の美しさを満喫しながら、マイナスイオンをいっぱい浴びて心も体もリフレッシュできました。

粕毛川源流部に下る尾根筋（標高約400～500m）には、所々で花の終わったイワカガミが群生していました。東北地方では標高800m付近より上に生育するものとばかり思っていたので、これは意外な発見でした。

急な痩せ尾根を一気に下り、最終目的地の粕毛川源流部に到着すると、川の水がとにかくきれいで感動しました。同時に森林パトロールの重要さも痛感しました。



遺産地域内に登山道は無いため、藪の濃い獣道らしき所を歩きます。



調査区内のブナの幹にくくりつけた気温計のデータ回収作業。



三蓋沢入口にセンサーカメラを設置して、人の入り込み状況や哺乳類の撮影データを集積します。



禁漁の遺産地域内ではイワナが沢山見られましたが、釣人が入った形跡はありませんでした。

最後に、一人で山を歩くのもいいかもしれませんが、案内をしてくれる人を見つけて一緒に植物や動物、山の文化や生活などを教えてもらいながら歩くのも充実した時間になると思います。(山内)

